

1000年先まで伝えたい片づけ教室 開催しました！



- 日時 2021年（令和3年）12月11日（土）10：00～12：00
- 会場 香川大学幸町北キャンパス 研究交流棟6階第1講義室
- 講師 整理収納コーディネーター いずみなみか 氏
整理収納コーディネーター 小川 智恵 氏（講師アシスタント）

12月11日（土）、香川大学幸町北キャンパス研究交流棟にて、「1000年先まで伝えたい片づけ教室」を開催し、10名が受講しました。本講座は、身近な生活活動である「片づけ」を通じて、暮らしやすくするための片づけの知識、モノに対する意識や行動を養い、モノを大切に思う心を身につけることを目的として開催しました。

はじめに、「整理する前に整理すること」と題し、片づけの基礎となる土台「思考と感情の整理」について学びました。必要なモノだけにする「整理」、必要な時にいつでも誰でもすぐに取り出せて、元に戻しやすくしまう「収納」、見た目よく並べたり使いやすさを向上させる「整頓」、使ったものを元の場所に戻す「片づけ」、それぞれ言葉の意味を理解し、無意識のうちに取っている行動や、自分自身、家族の想い、習慣などを知ること、理想の住まい環境を整えることができる事を学びました。

続いて、整理収納の方法や手順について学びました。

まず、「整理」「収納」について、ポイントとなる3つのポイント「適量管理」、「適物適所」、「定位置管理」について説明がありました。

「適量管理」では、管理しやすいモノの量を理解し収納部の容量に合わせたモノの量にすることの重要性を学びました。また、捨てる、捨てないの選別方法として、「捨てる」ことに重きを置かず、「必要なモノを選ぶ」方法を取ることで抵抗感なく作業ができ、記憶に残りやすいことも学びました。受講生たちは、これまでの「片づけ」に対する自身の考え方と照らし合わせながら、熱心に講義を聞いていました。作業をさらに効率化する手法として、ルールを作る事や、思い出の品などは、「迷い箱」に集めて猶予期間を設けて1年後に判断するなどの工夫も教えていただきました。

「適物適所」では、使用頻度や導線、サイズや特性を生かした収納用品を選ぶことの重要性を学びました。「定位置管理」では、収納場所にラベリングすることで、モノを置く場所を確定し、誰でも探しやすく元に戻しやすい環境づくりができることを学びました。

講座の後半は、仕切り箱を作成しました。仕切り箱は、家庭にある空き箱を使って簡単に誰でも作れるものです。受講生たちは、見本の仕切り箱を何度も観察しながら、講師に作成のコツを教えてもらったり、受講生同士で言葉を交わしながら、自分なりの仕切り箱を作成しました。

講座終了後、受講生からは「片づけにばかり意識が向いていたが、まずは気持ちの整理からはじめたいと思う」などの意見がありました。

